

# 定時総会(書面表決)開催

令和3年度定時総会は、新型コロナウイルスの感染拡大から、4月25日に3度目の非常事態宣言が出されたことを受けて、昨年に続き総会を書面表決(5月31日付)にて実施しました。その概要について報告します。

### 議題1. 令和2年度事業報告並びに同決算報告に関する件

#### 【はじめに】

会員各位のご支援・ご協力により、令和2年度事業が実施できましたことを心から感謝申し上げます。

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、4月から7月に予定していた4回の講習会を中止としました。その後、講習会のオンライン対応を図り、結果として17回の講習会と3回の説明会を実施しました。現場見学会、異業種他分野施設見学会等予定した5回の見学会は、全て中止としました。

また、優秀な人材の確保を支援するための学生向け合同企業説明会「みんなの建設業☆インターンシップ&業界研究フェスタ」は、オンライン配信として、実施しました。

これらの当会の活動内容や、会員企業の働き方改革の取り組み状況等を機関誌「DOBOKU技士会 東京」に掲載し、会員や関係団体の皆様に周知し、技士会活動をPRいたしました。

### 令和2年度 事業報告書

#### 1. 技術力向上に関する支援事業

##### (1)各種研修会・講習会の実施

若手技術者の育成や会員技術者の技術力向上のための講習会・研修会を全17回開催した。

##### ①若年技術者のための支援

- ・建設業新入社員研修会〔共催〕 (オンデマンド)
- ・新入社員半年フォロー研修会〔共催〕 (2回実施)
- ・若手社員(3年次～5年次)フォロー研修会〔共催〕

##### ②1級土木施工管理技士資格取得のための支援

- ・1級 実地試験 受験準備講習会〔共催〕 (オンデマンド)

##### ③基礎的な技能習得のための支援

- ・安全管理講習会 (オンライン)
- ・コンクリート施工技術講習会〔共催〕 (オンライン)
- ・環境管理講習会 (オンライン)

##### ④総合的な技能習得のための支援

- ・現場代理人の折衝力強化研修会〔共催〕 (オンライン)
- ・土木現場の生産性向上セミナー (オンライン)
- ・道路維持管理セミナー (対面)
- ・建設業の次世代対策セミナー (オンライン)
- ・原価管理講習会 (オンライン)
- ・コンクリート維持管理技術講習会(上級編) (オンライン)

- (2)土木工事現場の視察 新型コロナ対応から中止
- (3)異業種他分野等各種施設の視察 新型コロナ対応から中止
- 2. 関係法令・制度・行政施策等の情報提供
  - (1)法改正等に伴う説明会の実施
    - ・建設業の取引適正化に関する説明会〔共催〕 (オンライン)
  - (2)入札契約に関する説明会の実施
    - ・関東地方整備局の入札・契約、総合評価の実施方針等に関する説明会〔共催〕 (オンライン)
    - ・東京都入札契約制度等に関する説明会〔共催〕 (オンデマンド)
- 3. 広報事業
  - (1)若年者への魅力ある建設業のPR
    - ・合同企業説明会「みんなの建設業☆インターンシップ&業界研究フェスタ」開催〔共催〕 (オンライン)、(オンデマンド)
  - (2)一般向けの理解促進に関する事業
    - ・「わくすい空を翔ぶ」(わくわく・すいすい水辺探検)への協力
  - (3)機関誌「DOBOKU技士会 東京」の発行
  - (4)土木施工管理に関する情報収集及び提供
- 4. 調査研究
  - (1)現場見学受入れ先調査
  - (2)事業運営に必要な各種調査の実施
- 5. 表彰
  - (1)優良技術者表彰の実施  
会員から推薦された優良技術者114名を表彰した。
  - (2)各種表彰候補者の推薦  
優良技術者の中から12名と、役員3名を(一社)全国土木施工管理技士会連合会が行う表彰に推薦した。
- 6. 連絡協議  
関係行政機関・建設関係団体をはじめ、各地方技士会、(一社)東京建設業協会等と随時情報交換を行った。

—— 令和2年度 収支計算書 ——

(令和2年4月1日から令和3年3月31日まで)

I. 収入の部

(単位:円)

勘定科目	予算額	決算額	差異
大科目			
会費収入	33,400,000	32,846,730	553,270
入会金収入	100,000	6,000	94,000
事業収入	3,900,000	3,191,800	708,200
雑収入	100,000	22,442	77,558
当期収入合計(A)	37,500,000	36,066,972	1,433,028
前期繰越収支差額	5,780,000	5,788,502	▲ 8,502
収入合計(B)	43,280,000	41,855,474	1,424,526

II. 支出の部

(単位:円)

勘定科目	予算額	決算額	差異
大科目			
事業費	28,150,000	26,004,762	2,145,238
管理費	9,050,000	7,351,440	1,698,560
引当預金支出	400,000	400,000	0
積立預金支出	1,000,000	1,000,000	0
予備費	1,000,000	0	1,000,000
当期支出合計(C)	39,600,000	34,756,202	4,843,798
当期収支差額(A)-(C)	▲ 2,100,000	1,310,770	▲ 3,410,770
次期繰越収支差額(B)-(C)	3,680,000	7,099,272	▲ 3,419,272



## 議題2. 令和3年度事業計画(案)並びに同収支予算(案)に関する件

### I. 基本方針

昨年来、新型コロナウイルス感染症により、経済活動が大きく制限されております。特に対面を基本とする産業における規制は厳しく、感染拡大防止と経済の危機的状況打開という相反する対応に社会が混乱をきたしました。こうした中、ワクチン開発が実現化し、日本においても2月から接種が順次開始されています。ワクチン接種がより効率的に実施され、社会が早期に平常時に戻ることが望まれます。当会においても深刻さを増す感染拡大の防止策を推進し、行政の施策に協力しているところです。

こうしたコロナ禍の社会において、テレワークやリモート会議が推進されるなど、働き方が大きく変化しています。働き方改革は建設業界においても喫緊の課題であり、オンライン化などの動きが取組みの促進に繋がることを期待します。

当会では、このような社会や建設産業の情勢を鑑み、事業のオンライン化を併せて検討しながら、若手技術者の技術力向上や資格取得を支援するとともに、現場の生産性向上と維持管理に関連した研修会・講習会を実施いたします。また、関係団体と連携して各種法改正や入札契約に関する説明会を開催するほか、引き続き建設業のイメージアップのための広報活動や一般向けの土木見学会を実施するなど、魅力ある建設業をアピールしてまいります。

### II. 事業計画

#### 1. 技術力向上に関する支援事業

##### (1)各種研修会・講習会の実施(全てオンライン開催を予定)

- |                               |      |
|-------------------------------|------|
| ①若年技術者のための支援〔共催〕              | 5回   |
| ・建設業新入社員研修会〔共催〕               | (2回) |
| ・新入社員半年フォロー研修会〔共催〕            | (2回) |
| ・若手社員(3～5年次)フォロー研修会〔共催〕       |      |
| ②1級土木施工管理技士資格取得のための支援〔共催〕     | 2回   |
| ・1級 第一次検定試験 受験準備講習会 2日間講習〔共催〕 |      |
| ・1級 第二次検定試験 受験準備講習会 2日間講習〔共催〕 |      |
| ③基礎的な技能習得のための支援               | 4回   |
| ・コンクリート施工技術講習会〔共催〕            |      |
| ・仮設構造物の設計講習会                  |      |
| ・安全管理講習会                      |      |
| ・環境管理講習会                      |      |
| ④総合的な技能習得のための支援               | 8回   |
| ・現場代理人の折衝力強化研修会〔共催〕           |      |
| ・現場管理スキルアップ講習会                |      |
| ・原価管理講習会                      |      |
| ・生産性向上セミナー                    |      |
| ・コンクリート維持管理技術講習会(上級編)         |      |
| ・河川維持管理セミナー                   |      |
| ・BIM/CIM関連セミナー〔共催〕            |      |
| ・建設DX関連セミナー                   |      |

(2)土木工事現場の視察 2回

(3)異業種他分野等各種施設の視察 1回

2. 関係法令・制度・行政施策等の情報提供
  - (1)法改正等に伴う説明会の実施
    - ・建設業の取引適正化に関する説明会〔共催〕
  - (2)入札契約に関する説明会の実施
    - ・関東地方整備局 入札・契約制度に関する説明会〔共催〕
    - ・東京都 入札・契約制度に関する説明会〔共催〕
3. 広報事業
  - (1)若年者への魅力ある建設業のPR
  - (2)一般向けの理解促進に関する事業
  - (3)機関誌「DOBOKU技士会 東京」の発行(年4回)
  - (4)土木施工管理に関する情報収集及び提供
4. 調査研究
  - (1)現場見学受入れ先調査
  - (2)事業運営に必要な各種調査の実施
5. 表彰
  - (1)優良技術者表彰の実施
  - (2)各種表彰候補者の推薦
6. 連絡協議
  - (1)関係行政機関・関係団体との連絡協議

—— 令和3年度 収支予算 ——

(令和3年4月1日から令和4年3月31日まで)

I. 収入の部

(単位:円)

勘定科目	令和3年度 予算額	令和2年度 決算額	差 異
大科目			
会費収入	33,300,000	33,400,000	▲ 100,000
入会金収入	100,000	100,000	0
事業収入	4,200,000	3,900,000	300,000
雑収入	100,000	100,000	0
当期収入合計(A)	37,700,000	37,500,000	200,000
前期繰越収支差額	7,190,000	5,780,000	1,410,000
収入合計(B)	44,890,000	43,280,000	1,610,000

II. 支出の部

(単位:円)

勘定科目	令和3年度 予算額	令和2年度 決算額	差 異
大科目			
事業費	28,150,000	28,150,000	0
管理費	9,050,000	9,050,000	0
引当預金支出	400,000	400,000	0
積立預金支出	1,000,000	1,000,000	0
予備費	1,000,000	1,000,000	0
当期支出合計(C)	39,600,000	39,600,000	0
当期収支差額(A)-(C)	▲ 1,900,000	▲ 2,100,000	200,000
次期繰越収支差額(B)-(C)	5,290,000	3,680,000	1,610,000

以上2つの議題を提示し、5月19日付で全会員に資料を送付し、書面表決を求めた。

## 令和3年度定時総会 書面表決結果

書面表決者	協議事項 1		協議事項 2	
	賛	否	賛	否
法人会員 (133)	111	0	111	0
個人会員 (28)	12	0	12	0
合計 (161)	123	0	123	0

(令和3年5月31日)

会員数は法人会員133、個人会員28、計161に対して、各事項ともに123件“賛”の回答が寄せられ、76.4%の賛意を得られ過半数を超えたため(令和3年5月31日付)、成立した。(会則第19条)

## 優良技術者表彰

土木技術者の日頃の研究・研鑽を称え、技術者表彰規程に基づき、優良技術者の表彰を行いました。今年度は、昨年度に続きコロナ禍から表彰式、講演会、懇親会は全て中止。受賞者117名に対し賞状・記念品を送付しました。

### ◆技術者表彰規程 第2条第2項該当者 106名

国・地方公共団体等が発注した工事で、当該団体から優良工事として表彰を受けた工事に、現場代理人、監理技術者等の立場で業務に従事し、特に優秀な成績をあげ、他の模範となる者

天 野 公 英	天 野 亮	甘 利 晃 一	安 藤 浩 和	飯 田 修
家 上 幹 雄	生 信 将 雄	伊 藤 哲	井 野 幸 一	井 上 直 樹
井 村 毅 巳	岩 元 篤 史	岩 本 守 央	上 地 良 秀	後河内 英 二
遠 藤 博 一	大 熊 浩 輝	大 對 典 浩	大 塚 健 一	大 塚 亘
大 村 浩 一	小笠原 真 道	岡 本 早 記	小 川 高 志	沖 田 健 司
奥 村 翔 吾	落 合 秀 和	小 沼 史 明	帶 川 靖 洋	角 田 悠 一 郎
桂 弘 幸	加 藤 雄 介	角 屋 郁 夫	金 原 貴	狩 野 圭 介
川 口 成 二 郎	菊 川 和 昌	菊 地 辰 彦	北 野 優 介	汲 田 晶 也
小 泉 博 之	古 賀 進 一	小 林 和 博	小 林 崇 利	坂 口 信 昭
澤 口 慎	澁 谷 大 樹	嶋 田 聡	杉 本 高	鈴 木 健 次
鈴 木 真 寿 夫	鈴 木 康 秀	芹 澤 充	相 馬 和 也	高 木 宏 彰
高 橋 幸 司	高 橋 伸 知	滝 沢 究	滝 山 博 史	竹 内 光
竹 森 義 起	田 中 忠 昭	田 中 千 郷	田 中 寿 長	田 中 正 明
丹 内 勇 一	津 崎 誠 一 郎	辻 昭 人	角 田 憲 明	津 曲 祥 彰
寺 崎 雄 三	富 田 隆 之	鳥 海 邦 生	長 島 秀 樹	新 山 謙
橋 本 修 造	原 田 真 剛	東 原 誠	秀 嶋 桂	藤 井 良 博
藤 田 英 二	藤 原 健	逸 見 正 憲	宝 楽 誠	保 坂 光 信
星 出 修	堀 江 篤 志	松 浦 聡	松 野 一 之	松 村 徹
丸 木 敬 一	三 浦 剛 史	三 橋 久 輝	三 宅 義 樹	宮 崎 昌 哉
元 木 喜 之	守 重 鶴 夫	森 山 宗 高	安 江 輝	安 田 純
柳 町 肇	山 本 弘	吉 澤 崇 幸	吉 田 宏	和 田 圭 二
渡 邊 一 成				

◆技術者表彰規程 第2条第4項該当者 11名

土木施工技術に関する発明、実用新案、新技術の開発及び論文等に対し、公的機関から表彰された者

鍛冶 哲理	斉藤 徹	柴丸 祐治	鈴木 浩之	其田 直樹
田中 勉	根本 浩史	原田 耕司	松浦 誠司	山下 雅之
山田 芳文				

◆技術者表彰規程 第2条第5項該当者 1名

土木施工管理技術を活かして災害復旧作業や調査等のボランティア活動に参加し公的機関等から表彰状、感謝状を受けた者、または個人として上記活動に参加した者

大森 浩司
-------

(一社) 全国土木施工管理技士会連合会表彰

(一社)全国土木施工管理技士会連合会表彰として、前出第2条第2項授賞者106名のうち東京都内に現場のあった方々を候補として、事業運営委員会において検討し12名の方を推薦、連合会より優良工事従事技術者として表彰されました。

岩元 篤史	大塚 健一	澁谷 大樹	相馬 和也	高木 宏彰
高橋 伸知	滝沢 究	鳥海 邦生	長島 秀樹	和田 圭二
山本 弘	吉澤 崇幸			



## 副会長の選任

山田裕之副会長(総務員会委員長)の退任に伴い、後任の副会長について会則に基づき理事会(5月18日付書面表決)において審議の結果、中林雅昭理事(戸田建設株式会社)が選任されましたので、ご報告いたします。

なお、現在の役員は下記のとおりです。



副会長 中林 雅昭  
(戸田建設株式会社)

## 役員名簿

(敬称略)

役 職	氏 名	所属会社	役 職	氏 名	所属会社
会 長 (理事)	寺 田 光 宏	東急建設株式会社	理 事	中 村 龍 由	東洋建設株式会社
副 会 長 (理事)	中 林 雅 昭	戸田建設株式会社	//	稲 葉 靖 規	飛島建設株式会社
//	桑 原 泰 秀	清水建設株式会社	//	岩 田 耕 一	株式会社ナカノフドー建設
理 事	大 田 正 俊	あおみ建設株式会社	//	難 波 正 和	西松建設株式会社
//	大 西 亮	株式会社安藤・間	//	大 林 匡	日本道路株式会社
//	水 野 敏 昭	オリエンタル白石株式会社	//	林 清 一	林建設株式会社
//	風 間 優	鹿島建設株式会社	//	水 谷 圭 一	株式会社フジタ
//	三 浦 直 之	株木建設株式会社	//	東 福 忠 彦	前田建設工業株式会社
//	小 野 哲 男	株式会社熊谷組	//	奥 村 一 彦	三井住友建設株式会社
//	中 村 俊 智	五洋建設株式会社	//	久野木 哲 也	みらい建設工業株式会社
//	三ツ井 達 也	坂田建設株式会社	//	坂 田 真 一	個人会員
//	川 端 一 知	佐藤工業株式会社	監 事	山 口 政 之	ショーボンド建設株式会社
//	深 澤 裕 紀	大成建設株式会社	//	長 野 茂 樹	常盤工業株式会社
//	松 井 秀 一	大豊建設株式会社	//	松 田 雄 二	三井住建道路株式会社
//	谷 口 和 善	鉄建建設株式会社	常務理事	市 川 光 一	東京土木施工管理技士会

(令和3年5月19日現在)